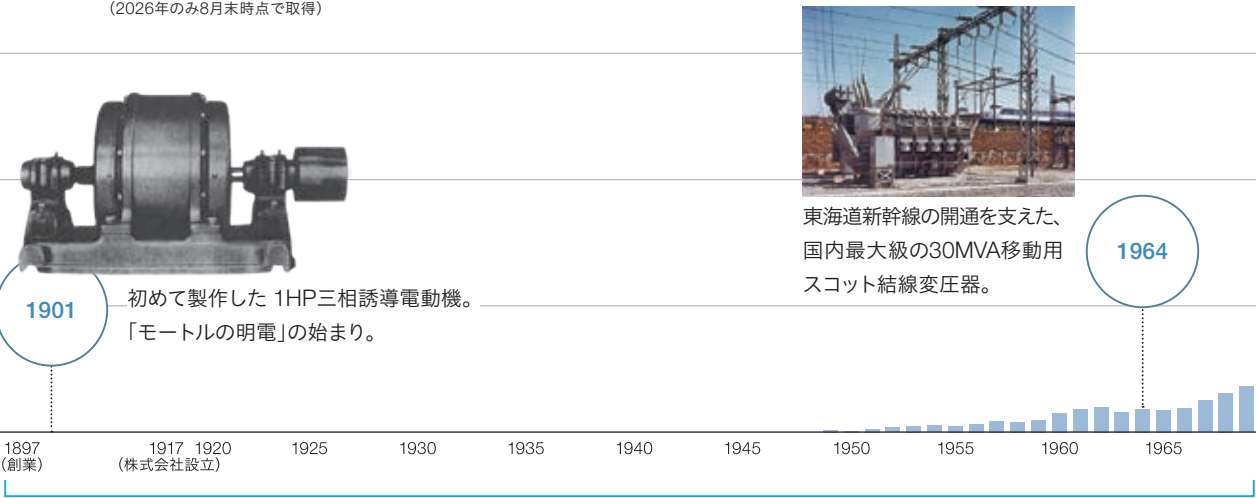


明電グループ価値創造の変遷

明電舎は1897年の創業以来、愚直にものづくりを追求しながら、社会インフラ分野を中心に様々な技術や製品・サービスを創出し、社会の持続的な発展に貢献してきました。当社のものづくりへのこだわりや探究、挑戦は、「電気の力で世の中を豊かにする」という創業者 重宗芳水の志に由来します。芳水には、製品の先にある多くの人々の豊かな暮らしを思い描き、技術を磨き、事業を通して世の中を豊かにするという強い信念がありました。これはまさに、電機メーカーである当社の使命であり、存在意義でもあります。

■ 売上高 ※1990年度以降は連結での集計
■ 時価総額 ※データが取得できる1979年以降は、年末時点の時価総額で集計
(2026年のみ8月末時点で取得)



40年以上にわたる真空遮断器の製造で蓄積したノウハウを活用し、真空コンデンサを開発。半導体製造装置などの電源メーカーへ納入開始。

1994



明電舎独自の画像解析技術を用いた鉄道事業者向け架線検測装置を納入開始。架線の摩耗状況の確認・点検をリアルタイムで検測。

2004



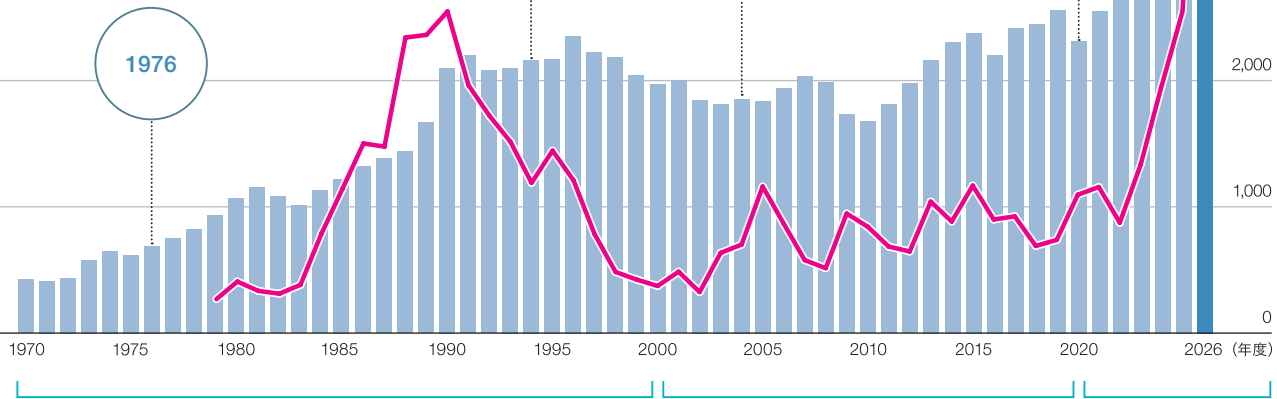
SF₆ガス不使用の145kVエコタンク形真空遮断器を世界で初めて開発・販売。環境規制強化に対応し、北米市場での展開を拡大。

2020



国内最大級の自動車騒音試験用大形無響室を日本自動車研究所に納入。日本の自動車産業の発展に大きく貢献。

1976



創業～1960年代

電力・社会インフラの普及への貢献



1897年、まだ日本が産業機器の多くを外国製品に頼っていた時代、重宗芳水が町工場として明電舎を創業しました。1905年には独自の「誘導電動機設計法」を考案し、翌年からモーターの生産を本格化しました。以降、電動機・発電機・変圧器などを製造し、産業機器や電力インフラの発展に貢献しました。

1970年代～1990年代

産業の進歩・高度化を支える



1970年代には社会風潮の変化に伴い、量的経営から質的経営へ転換し、重電機器メーカーとして体質改善を図りました。電力用酸化亜鉛避雷器の開発や、日本の自動車産業の飛躍を支えたダイナモメータ、鉄道・水処理分野向け遠隔監視装置など、納入実績を着実に伸ばしたことにより、産業発展と人々の生活向上に貢献し、1980年代には時価総額も大幅に拡大しました。

2000年代～2010年代

日本の明電舎から世界のMEIDENへ



国内で厳しい事業環境が続く中、将来的な事業拡大を確固たるものにすべく、海外事業の発展に注力しました。1960年代から拠点を構えていた東南アジアを中心に事業運営の現地化を図る他、2010年代にはM&Aによりインド事業、ドイツ事業に参入し、2020年には北米にも拠点を構え、新たなエリアへと事業を拡大しました。

2020年代以降・これから

外部環境の変化を捉え、社会とともに持続的な成長へ



AI普及に伴う電力需要の増加を軸とした社会・産業構造の変化を成長機会と捉え、変電機器の拡販や、インフラの新設・更新から保守までの需要取り込みを通じて、事業規模拡大と収益力強化を図ってきました。時価総額が過去最高を更新した現在も使命は変わらず、社会基盤を支える企業として持続的な価値創造に取り組んでいます。